

令和 5 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

および

「学校関係者評価報告書」

大阪市立大成小学校

令和 6 年 3 月

大阪市立大成小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる」ことを学校教育目標として、特に、「自ら学び、心身ともにたくましく生きる子どもを育てる」ことを重点目標とし、学校運営に取り組んでいる。児童の自尊感情が高いかが大切である。校内の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところや、自信を持っていることがある」の項目において肯定的に答える児童の割合が高いことが望まれる。現状、高学年になるにつれて低いので、全学年80%以上の児童が肯定的な回答になるように努めたい。現状、暴力行為等を行う児童は存在せず、児童は、比較的穏やかで、日々落ち着いて学習活動に取り組んでいる。学力面や体力面において、学年や教科によって多少ばらつきがあるものの、全国平均には届かないが、大阪市平均とほぼ同水準である。一方、家庭環境や本人の状態により、生活面や学習態度面において、課題がある児童も複数名存在する。また、不登校や不登校気味の児童が複数名存在し、登校状況が改善するように、学級担任が日々尽力している。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、90%以上にする。
- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査の本校の平均点が、全ての教科・学年で大阪市平均点を上回る。
- ・ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の平均が、全ての種目で大阪市平均を上回る。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 学力経年調査の「コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。
- ・ ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、1日以上設定する。
- ・ 令和7年度の全国学力・学習状況調査、もしくは、校内調査等の「読書は好きですか」に項目について、肯定的に答える児童の割合を、76.5%以上にする。
- ・ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
＜令和4年度 80.04%＞ ＜令和5年度 72.7%＞ ×
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
＜令和4年度 3.09%＞ ＜令和5年度 4.66%＞ ×
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○

学校園の年度目標

- ・ 校内の児童アンケートにおいて、「学校が楽しいですか」の項目について、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を、60%以上にする。
＜令和4年度 肯定的回答 89.6%＞ ＜令和5年度 63.9%＞ ○
- ・ 校内の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところや自信を持っていることがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。
＜令和4年度 81.5%＞ ＜令和5年度 90.0%＞ ○
- ・ 校内の児童アンケートにおいて、「学校のきまりやルールを守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。
＜令和4年度 83.7%＞ ＜令和5年度 94.5%＞ ○

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
＜令和4年度 30.7%＞ ＜令和5年度 43.3%＞ ○
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ×
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。
＜令和4年度 85.7%＞ ＜令和5年度 84.9%＞ ×
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。
＜令和4年度 75.1%＞ ＜令和5年度 74.5%＞ ×
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を74%以上にする。
＜令和4年度 73.9%＞ ＜令和5年度 79.7%＞ ○

学校園の年度目標

- ・ 校内の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えを書いたり話したりするのが楽しいですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。
＜令和4年度 79.4%＞ ＜令和5年度 84.5%＞ ○
- ・ 校内の児童アンケートにおいて、「体育の時間にしっかりと運動をしていますか」の項目において、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を、75%以上にする。
＜令和4年度 肯定的回答 96.8%＞ ＜令和5年度 84.4%＞ ○
- ・ 校内の児童アンケートにおいて、『早寝・早起き・朝ご飯』そして、歯みがきを守ってしていますか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、91%以上にする。
＜令和4年度 90.3%＞ ＜令和5年度 92.2%＞ ○

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- デジタル教材を活用した朝学習を週１回実施する。
- 協働学習支援ツールを用いた学習を週１回実施する。
- 年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を８８％以上にする。
＜令和４年度 ８７．０％＞ ＜令和５年度 ９１．７％＞ ○
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する
基準１（※）を満たす教員の割合を６１％以上にする。
＜令和４年度 ６０．８７％＞ ＜令和５年度 ６１．９０％＞ ○

基準１（※） １ヶ月間の時間外勤務時間数が、４５時間未満で、
１年間の時間外勤務時間数が、３６０時間未満

学校園の年度目標

- 令和５年度の全国・学力学習状況調査の「５年生までに受けた授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、８２％以上にする。
＜令和４年度 ８１．５％＞ ＜令和５年度 １５．６％＞ ×
- ゆとりの日を、月３回以上設定する。
＜令和４年度 月２回＞ ＜令和５年度 月２回設定＞ ×
学校閉庁日を、夏季休業期間中は３日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、１日以上設定する。
＜令和４年度 ４日ずつ設定＞ ＜令和５年度 ４日ずつ設定＞ ○
- 令和５年度の大阪市小学校学力経年調査の「読書は好きですか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、７８％以上にする。
＜令和４年度 ７７．６％＞ ＜令和５年度 ７６．２％＞ ×
- 令和５年度末の校内の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にしているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、８１％以上にする。
＜令和４年度 ８０．０％＞ ＜令和５年度 ８９．２％＞ ○

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度も、学校運営において、全教職員が、この「運営に関する計画」を常に意識して、日々、取り組みを進めた。

本年度の各取り組み内容や指標の設定は、適切であったと考える。

本年度、「安全・安心な教育の推進」、「未来を切り拓く学力・体力の向上」、「学びを支える教育環境の充実」の最重要目標3つとも、年度目標を達成することができた。

また、それぞれの年度目標達成に向けた取り組みにおいても、全ての指標を達成することができた。

3つの最重要目標の中で、昨年度から設定された「学びを支える教育環境の充実」において、いい結果を出すことができた。「学びを支える教育環境の充実」ができてこそ、「安全・安心な教育の推進」ができ、「未来を切り拓く学力・体力の向上」ができると考える。来年度以降も、3つの最重要目標の中で、特に、「学びを支える教育環境の充実」に重点的に取り組む。

本年度のこれらの成果をさらに大いに伸ばし、一方、克服することができなかった課題を改善するために、来年度は、さらに、高い年度目標を設定して、一部は、年度目標の数値を修正して、引き続き、全職員で、年度目標達成に向けて取り組みを進める。

一昨年度、創立100周年を迎え、新たな100年へのスタートしている102年目の本年度を終えた。

本年度は5月に、新型コロナウイルスが第5類に指定されて、これまでのコロナ対策が緩和され、さまざまな面において、コロナ渦以前に戻りつつある。地域行事が復活し、学校行事の中の体育的行事や儀式的行事においては、地域のご来賓をお招きして実施することができた。地域の中にある学校として、再び、地域と連携をして、学校運営を進めていかなければならない。

来年度以降、本校のよき伝統を守り続けること、新しく改革を進めること、この両輪をバランスよく、全職員で、令和7年度末の中期目標の達成に向けて、学校運営を進める。

大阪市立大成小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。 <令和4年度 80.04%> <令和5年度 72.7%> × ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 <令和4年度 3.09%> <令和5年度 4.66%> × ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○ <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の児童アンケートにおいて、「学校が楽しいですか」の項目について、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を、60%以上にする。 <令和4年度 肯定的回答 89.6%> <令和5年度 63.9%> ○ ・ 校内の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところや自信を持っていることがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。 <令和4年度 81.5%> <令和5年度 90.0%> ○ ・ 校内の児童アンケートにおいて、「学校のきまりやルールを守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、85%以上にする。 <令和4年度 83.7%> <令和5年度 94.5%> ○ 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【①安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「いじめアンケート」を学期に1回実施するとともに、学級担任が日頃から、児童の様子を細かく観察して、いじめが疑わしい時は、丁寧に聞き取りを行う。 (基本的な方向1)</p> <p>指標 「いじめアンケート」を学期に1回、確実に実施する。</p>	B
<p>取組内容②【①安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「スクリーニング会議Ⅰ」を毎月実施して、児童の状況を全教職員で共通理解する。また、不登校児童に関して関係諸機関と連携して、登校状況の改善に向けて取り組む。 (基本的な方向1)</p> <p>指標 「スクリーニング会議Ⅰ」を月1回実施し、児童の状況を把握し、また、不登校児童に関して、保護者、および、関係諸機関と協議し、登校状況を改善させる。</p>	B
<p>取組内容③【①安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>きまりやルールを守る規範意識を高めて、道徳心や社会性を育成する。 (基本的な方向1)</p> <p>指標 毎週月曜日の児童朝会において、月目標に関する話をする。 きまりを守る指導を根気強く継続的に実施する。</p>	B
<p>取組内容④【②豊かな心の育成】</p> <p>自己肯定感を高めるとともに、他者への理解や思いやりを育む。(基本的な方向2)</p> <p>指標 特別な教科「道徳」や、学級活動の時間において、「ピア・サポート」などの活動に積極的に取り組む。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 各学期に1回ずつ、「いじめアンケート」を実施した。学校独自のアンケートにおいて、「何度も続けて嫌なことを言われたり、嫌なことをされたりしている。」の項目で肯定的に回答した児童に、丁寧に聞き取りを行い、必要に応じて指導をした。「いじめについて考える日」、および、「いのちについて考える日」を設定し、学校長講話やポスター掲示などを行った。</p> <p>② 月に1回ずつの職員会議の後に、スクリーニング会議Ⅰを実施した。児童や家庭の課題に関する情報を全職員で共有し、学級担任のみで抱え込まないように、組織的に対応することができる体制をとった。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの関係諸機関と連携して、サポートを得た。不登校傾向にある児童が、昨年度までと比較して、登校できる時間が増えた。</p> <p>③ 毎週月曜日の児童朝会や月に1回の集合して実施する児童朝会で看護当番から月目標に関する話をした。毎朝、放送委員会の児童が放送で伝え、日常的に児童が付き目標を耳にするようにした。委員会活動では、代表委員会を中心に「きまりを守ろう頑張りカード」の取り組みを学期に1回ずつ実施して、児童自身が自己評価をする機会と結果を振り返る機会を設定し、きまりを守ることの大切さを考えさせた。</p> <p>④ 特別な教科「道徳」や学級活動の時間を中心に、「ピア・サポート活動」に取り組み、自己肯定感を高める活動を継続的に取り組んだ。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 日常的ないじめ予防的指導を続ける。</p> <p>② 毎月1回の「スクリーニング会議Ⅰ」と、必要に応じて生活指導部会を実施する。</p> <p>③ 指導を続ける。</p> <p>④ 実践を積み重ねて、指導を続ける。</p>	

大阪市立大成小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40% 以上にする。 <令和 4 年度 30.7%> <令和 5 年度 43.3%> ○ 大阪市小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 <令和 4 年度 半数が 1 ポイント向上> <令和 5 年度 1 ポイント向上せず> × 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86% 以上にする。 <令和 4 年度 85.7%> <令和 5 年度 84.9%> × 大阪市小学校学力経年調査における「外国語 (英語) の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76% 以上にする。 <令和 4 年度 75.1%> <令和 5 年度 74.5%> × 大阪市小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 74% 以上にする。 <令和 4 年度 73.9%> <令和 5 年度 79.7%> ○ <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内の児童アンケートにおいて、「自分の思いや考えを書いたり話したりするのが 楽しいですか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、80% 以上にする。 <令和 4 年度 79.4%> <令和 5 年度 84.5%> ○ 校内の児童アンケートにおいて、「体育の時間にしっかりと運動をしていますか」の項目において、最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を、75% 以上にする。 <令和 4 年度 86.8%> <令和 5 年度 84.4%> ○ 校内の児童アンケートにおいて、「『早寝・早起き・朝ご飯』そして、歯みがきを守ってしていますか」の項目において、肯定的に答える児童の割合を、90% 以上にする。 <令和 4 年度 90.3%> <令和 5 年度 92.2%> ○ 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科を研究教科とし、「自ら考え、豊かに表現する力の育成 ～話し合い活動を活性化する指導のあり方～」という研究主題で取り組みを進める。（基本的な方向4）</p> <p>指標 全学年が研究授業に取り組み、その後の研究討議会で討議を深めるとともに、全教員が授業を公開し、授業力・指導力を向上させる。</p>	A
<p>取組内容②【④誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C－N E Tや英語主任と連携して、英語教育の強化を図る。（基本的な方向4）</p> <p>指標 外国語活動や外国語の授業の公開や、学習参観に取り組む。</p>	B
<p>取組内容③【⑤健やかな体の育成】</p> <p>「体づくり運動」を取り入れるなど体力向上を図る。（基本的な方向5）</p> <p>指標 体育の学習時間の導入時、ストレッチや体ほぐしなど走力を養う「体づくり運動」に取り組む。</p>	A
<p>取組内容④【⑤健やかな体の育成】</p> <p>睡眠や朝ご飯をはじめとする健康な生活について指導を充実し、子どもの健やかな成長を図る。（基本的な方向5）</p> <p>指標 保健だよりや委員会活動等を通して、生活習慣、特に、手洗い・うがいの習慣の啓発を行うとともに、学期に1回、生活リズムに関する強調週間を設けて意識づけと習慣化を図る。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 全教員が授業を公開して、討議会などで意見交流を行うことで、授業力・指導力の向上が見られた。</p> <p>② 学級担任とC－N E Tが工夫をしながら授業を進めたので、児童が、意欲的に学習に取り組むことができた。</p> <p>③ ストレッチやシナプソロジーを体育学習の導入時に取り入れて、体育の授業を展開することができた。</p> <p>④ 「学校生活振り返りアンケート」において、92.2%の児童が肯定的な回答をし、「保護者アンケート」において、80%の保護者が肯定的な回答をした。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 来年度も研究教科を国語科としたので、振り返りの評価の観点や基準について考える。</p> <p>② 各学年で実施した「体づくりの運動」の実践を全教員で共有できるように工夫する。</p> <p>③ 「体づくりの運動」の研修を実施して、「体づくり運動」の指導方法を研修する。</p> <p>④ 高学年になるにつれてスクリーンタイムの増加による寝不足が増加して、体調不良が多いので、よりよい生活習慣の確立に向けて指導を工夫する。</p>	

大阪市立大成小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材を活用した朝学習を週1回実施する。○ 協働学習支援ツールを用いた学習を週1回実施する。○ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を87%以上にする。 $\lt \text{令和4年度 } 87.0\% \gt \lt \text{令和5年度 } 91.7\% \gt$ ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する <u>基準1(※)</u>を満たす教員の割合を61%以上にする。 $\lt \text{令和4年度 } 60.87\% \gt \lt \text{令和5年度 } 61.90\% \gt$ ○ <p><u>基準1(※)</u> 1ヶ月間の時間外勤務時間数が、45時間未満で、 1年間の時間外勤務時間数が、360時間未満</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の全国・学力学習状況調査の「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、81%以上にする。 $\lt \text{令和4年度 } 81.5\% \gt \lt \text{令和5年度 } 15.6\% \gt$ × ゆとりの日を、月3回以上設定する。 $\lt \text{令和4年度 } \text{月2回} \gt \lt \text{令和5年度 } \text{月2回設定} \gt$ × 学校閉庁日を、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、1日以上設定する。 $\lt \text{令和4年度 } 4日ずつ設定 \gt \lt \text{令和5年度 } 4日ずつ設定 \gt$ ○ 令和5年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、77%以上にする。 $\lt \text{令和4年度 } 77.6\% \gt \lt \text{令和5年度 } 76.2\% \gt$ × 令和5年度末の校内の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、80%以上にする。 $\lt \text{令和4年度 } 80.0\% \gt \lt \text{令和5年度 } 89.2\% \gt$ ○ 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【⑥教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 1人1台学習者用端末などICT機器を活用した教育を推進する。(基本的な方向6) 指標 1人1台学習者用端末などICT機器を、日々活用する。		A
取組内容②【⑦人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革の推進に取り組み、働きやすい職場とする。(基本的な方向7) 指標 全職員、午後6時退勤とする「ゆとりの日」を月3回以上設定する。		
取組内容③【⑧生涯学習の推進】 主幹学校司書と連携して、学校図書館を活性化させる。(基本的な方向8) 指標 学校図書館を各学級、週に1回以上活用し、利用者数や貸出冊数を令和4年度以上にする。		A
取組内容④【⑨家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 学校ホームページにて、学校の取り組みや、児童の様子を、保護者・地域に積極的に公開する。(基本的な方向9) 指標 学校ホームページを、日々更新し、アクセス数を令和4年度以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>① 「こころの天気」の入力を毎日実施して、学習中は、調べ学習やデジタル教科書などで、児童用学習者用端末を活用しているので、ICT機器を活用した教育が進んだ。</p> <p>② 年度当初、月3回の「ゆとりの日」の設定を掲げたが、校務支援パソコンの持ち帰りが増えたので、年度途中から月2回の設定に抑えた。教員の時間外勤務時間数は昨年度より、増加した。</p> <p>③ 学級担任と主幹学校司書が頻繁に打ち合わせをして、その時々々の学習内容にあった図書を学級文庫に入れ、学校図書館で読書する時間を確保し、また、読書に関する取り組みを工夫したので、図書の貸出冊数が増えた。</p> <p>④ 毎日の学校行事や学習活動、休み時間の児童の様子などを、学校ホームページ「学校日記」で発信したので、アクセス数が昨年度より大幅に増加した。</p>		
次年度への改善点		
<p>① 低学年での英語モジュール学習を進めるために、朝の時間を効率的に使わなければならない。また、学年によって「こころの天気」への入力頻度に差があるので、解消する。</p> <p>② 教員の執務状況をみながら、「ゆとりの日」の設定をする。また、学校行事の精選と校務の効率化に、継続的に取り組む。</p> <p>③ 図書の貸出冊数を指標にすると、貸出冊数に限界があるので、児童の読書に関する意識調査の結果を指標にするなどの工夫をする。</p>		

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大成小学校 学校協議会

1 総括についての評価

今年度の学校の自己評価結果は、妥当である。

総合的に見て、良好な学校運営をしている。しかし、それが、教員の時間外勤務によって成り立っているのなら、その状況は好ましくない。

不登校、または、不登校気味の児童に対して、全職員で取り組んでいるのは、とても良い。その成果として、不登校児童、または、不登校気味の児童の登校状況が改善されたのだろう。

本地域の児童のために、全職員で、熱心に、さまざまな取り組みを進めていただき、大変ありがたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標 : 安全・安心な教育の推進

今年度の学校の自己評価結果は、妥当である。

「学校が楽しい。」と思う児童の割合が、昨年度より高くなったことは、よかった。

年度目標 : 未来を切り拓く学力・体力の向上

今年度の学校の自己評価結果は、妥当である。

「全国体力、運動能力・運動習慣等調査」において、第5学年の児童に、いい結果が出たことは、よかった。

「大阪市小学校学力経年調査」において、第4学年だけが大阪市平均を上回ったので、他の学年も第4学年と格差が出ないように、さらに、大阪市平均を上回るように頑張ってもらいたい。そのためには、学校の取り組みだけではなく、各家庭で、保護者の協力が必要不可欠である。

年度目標 : 学びを支える教育環境の充実

今年度の学校の自己評価結果は、妥当である。

「心の天気」というので、それぞれの児童のその日の気持ちがわかると、教員がそれぞれの児童に接しやすいだろう。

区政会議で「読書をする児童が減った。」と聞いたが、本校ではそうではないようなので、安心した。本校の学校図書館に、「主幹学校司書」が週4日間配置されている成果だろう。

教員の時間外勤務の時間数の多さが、まだ改善されていない。

3 今後の学校運営についての意見

さまざまな学習課題に取り組むうえで、国語力は必要不可欠なので、本校が、国語科の指導に力を入れていることは、とても良い。

引き続き、児童が、「楽しい」と思う学校作りをしてほしい。

また、不登校、および、不登校気味の児童の登校状況改善のために、全職員で取り組みを進めてほしい。

教員の時間外勤務の時間数が減少するように、取り組みを進めてほしい。

配布文書をできる限り、学校WEBページに掲載してほしい。掲載されていると、もし紛失しても、文書の内容を学校WEBページ確認することができるので、安心である。

引き続き、本地域の児童のために、全職員で、さまざまな取り組みを進めてほしい。